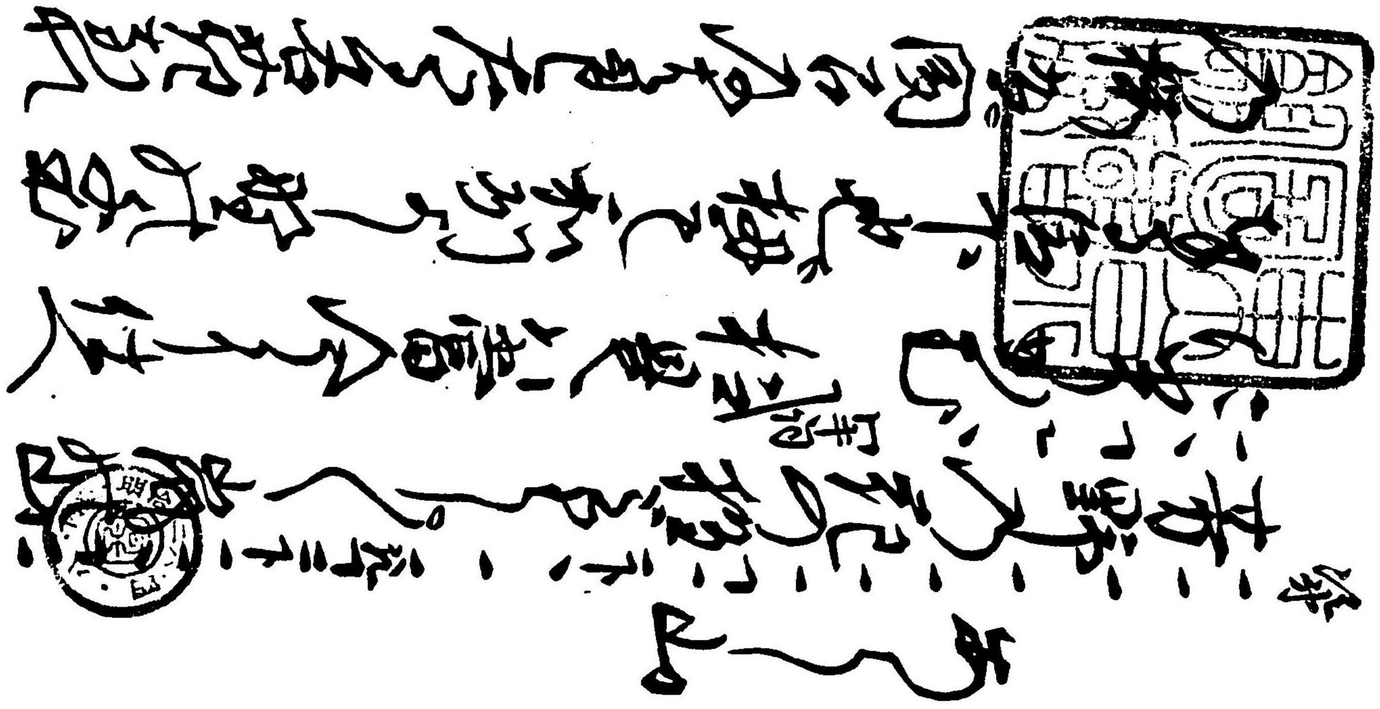
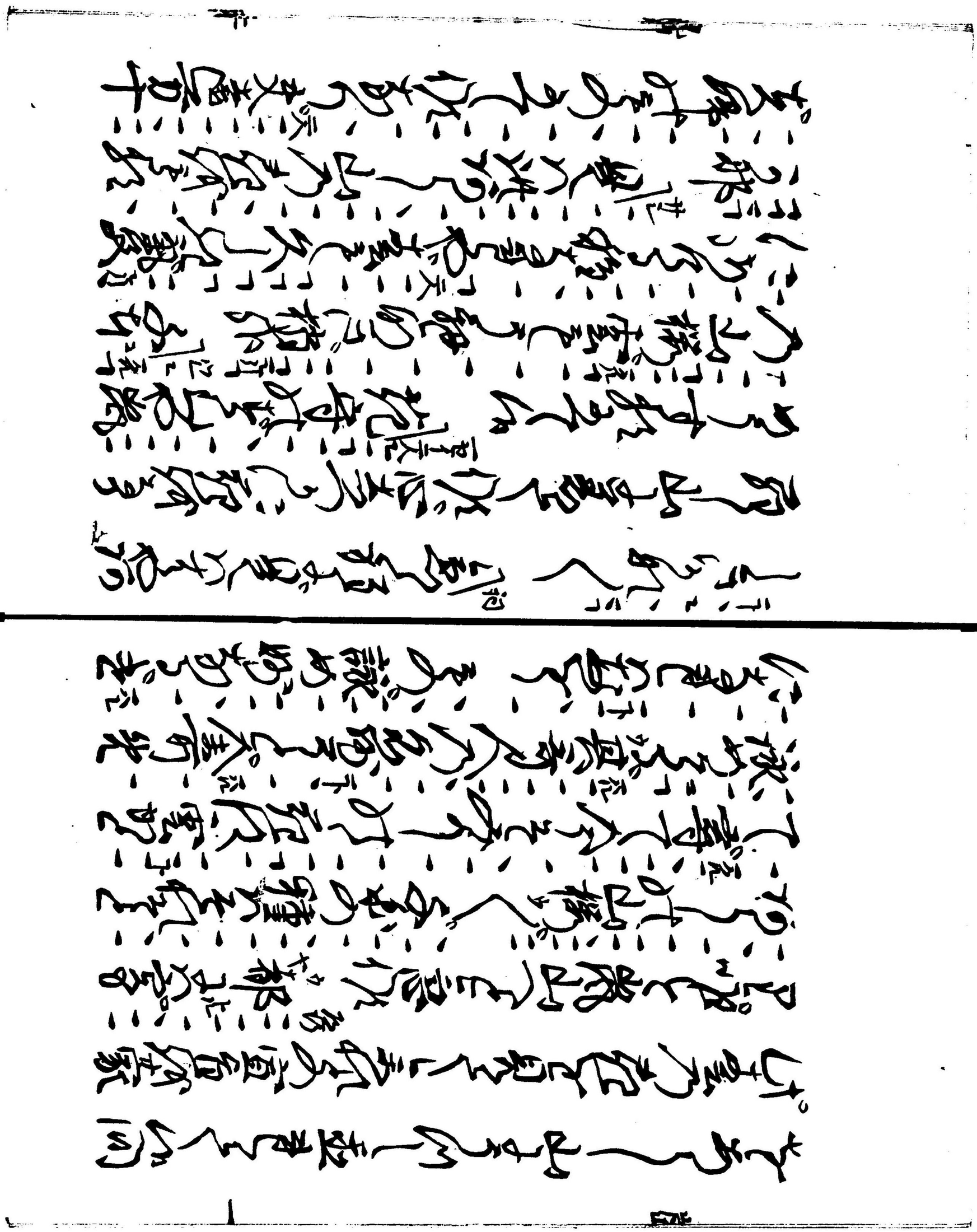
特42
456

訂正 觀世流謠外編 全

嵐山





墨乃かちなれば花見に華あるまゝよ

ぐれだれよりけし山桜千もとの花衣

稚やうにてば嵐山よりたてつなばの

世々の例しをや見よそとも君のめぐみ

う那きのもしやつ乃き山路

御代乃あまね色のかもしつへまつまでや

九重かけて日影よかへよ花車なり

えもし西よめるあ日の数ゆく雲わけて

やま戸綾瀬に落る波をちらして

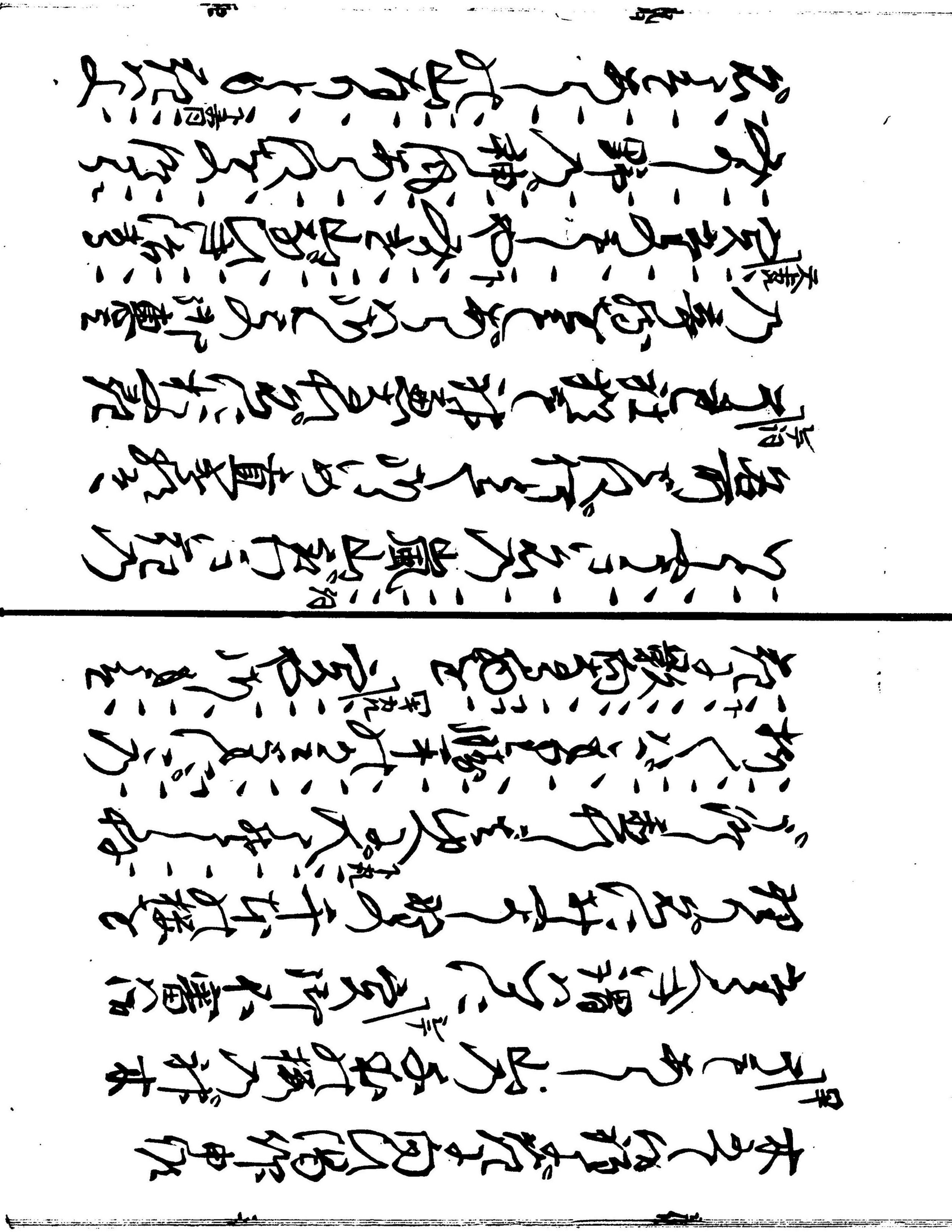
きゆる花乃瀧をば久しさ気乞かく

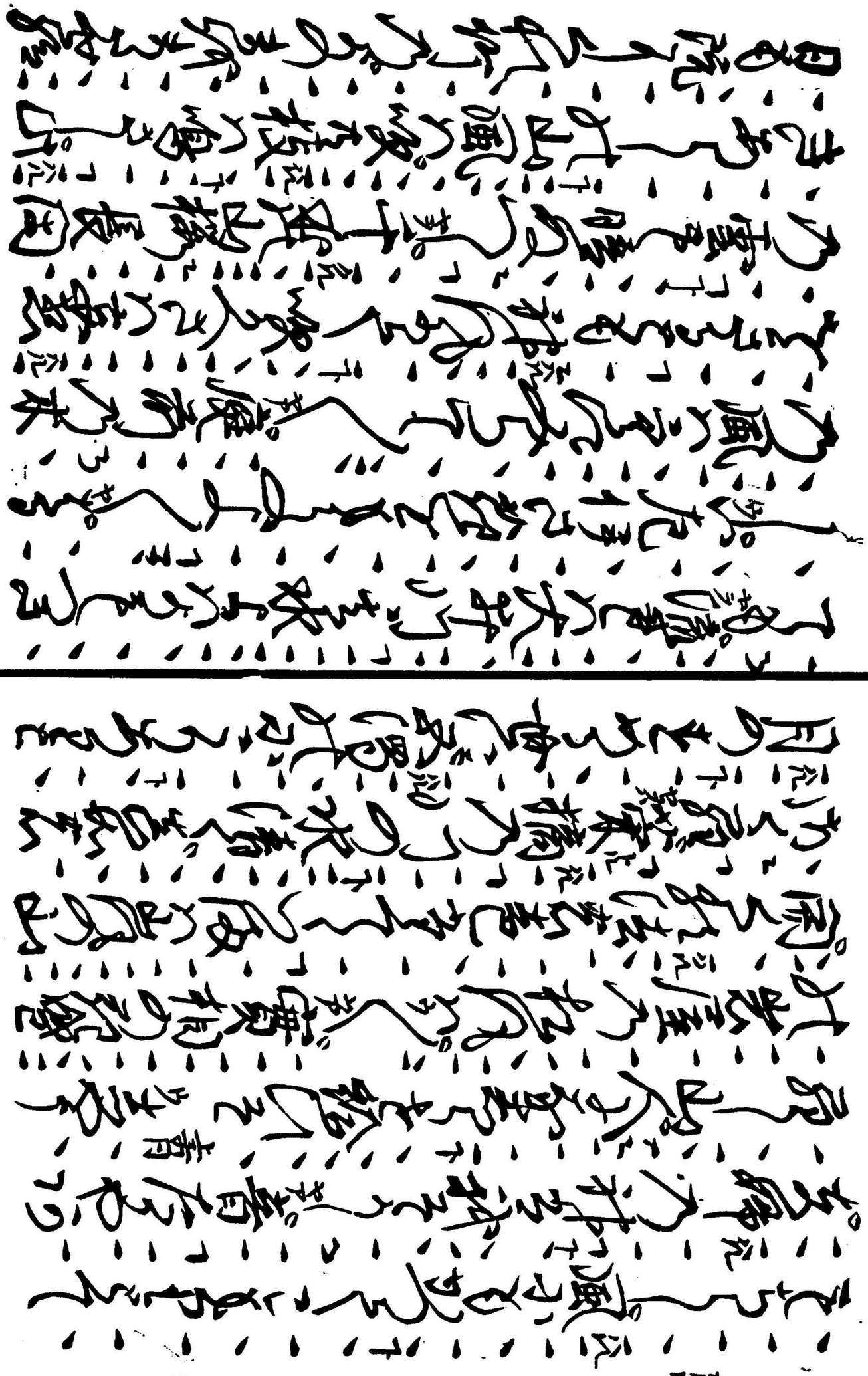
早作 不思議ある花をまきく見とみえしは花か

向ひ渡り作くに乱れて大悲にまよひいう

ありしやさし　レテ作 かしゆきへ嵐山の花

守らなくば嵐山の千本の桜いばやおれ





ゆく〳〵は山桜さくら花
雲にまがふのりて夕陽ぞ西山やみ
ぬ
野辺のくさ花の種う植ゑ
麓山ちらたる秋あるしして見山
ぬ
神楽百ぬ
花社

貴殿う峯寄て
ぬ
岩根よ波うあ亀山をみたる萬
代〳〵やとく神あるしぬ
神楽の歌声澄ぬ
続け扶ぬ

豊後度重ねて感應顯はれたりき
上ヒ不思議や南の空より吹来る
風の異香薫じて瑞雲たなびき
上元 色光さうやうたれば藏王
權現の教示うやまひ手を合せ物の怪
早苗 赤
調伏本尊の都を出で分
上ヒ 上ヒ
陸同語の塵よりつど
上ヒ 脇

部の号を以つりき 惡業滅尽
上ヒ 上元 上ヒ
つ苦患をたすけ 小りく人塵を
上ヒ 上ヒ
即手水を吳 忽苦海の煩惱
上元 上元
をきり 惡魔防伏の正軍
上ヒ
外ゆ 放つ 國去て
上ヒ
月 庭を寺 ちりぬ
上ヒ
てとりて 藏王權現同躰

右之本者觀世太夫織部以章句
眞本令版行畢
天保十一庚子歳孟春改正再板
皇都二条通御幸町西江入町旧
山本長兵衛

定價三錢五厘

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

板權所有

訂正者　東京市麹町區飯田町四丁目壱番地
宮内省御用達　觀世清廉
發行者　京都市上京區二条通御幸町西江入
檜常之助
發兌印刷者